

梅鶯仏教壮年会報

第164号
2020年
4月19日

梅鶯仏壯総会開催

去る三月二十八日に令和元年度の総会が開催され、令和二年度の行事予定がつぎの通り決定されました。

令和二年度行事予定

- 5月31日(日) 例会(17時)
- 6月6日(土) 法輪寺永代経法要
- 7月26日(日) 例会(17時)
- 10月5日(月) 本山念仏奉仕団
- 6日(火) 同
- 11月28日(土) 報恩講
- 12月26日(土) 除夜会(11時)
- 1月31日(日) 例会(17時)
- 3月27日(土) 総会・役員会

総会を終わってそしてこれから

会長 森勝昭

令和二年三月二十八日午後五時より元年度の梅鶯仏壯の総会を開催し、事業報告・会計報告・新年度の事業計画などを協議し

ました。新年度の年間事業が決まりました。梅鶯仏壯は、平成十五年六月一日に設立して、十七年が経過しました。その間、本山参拝、別院めぐりを通して著名人の方々との対面や対話など多くの見聞を広めてきました。これかめ、梅鶯仏壯の会員は少ないが、活動の中心は、二ヶ月毎の例会、梅鶯報の発行、その会報は昔の梅鶯仏青に関わって配布された方々、念仏者の方々にも配布しています。坂田組内、滋賀教区内でも活動している方の仏壯だと勝手に思っています。令和二年は、久しぶりに参りをしようと思われ、十月に念仏奉仕団参拝研修を計画しました。本願寺のH・Pによる念仏奉仕団の歴史を調べますと、昭和二十三年の蓮如上人四百五十回忌法要に参拝された方々が、戦争で荒廃した境内を見て心を痛められたことから始まっている。そして奉仕団活動として本願

す。昭和三十六年の親鸞聖人七百回大遠忌法要の頃から、一泊二日の奉仕団活動になって今日まで続いています。昔の梅鶯仏青の活動記録を見ますと、昭和三十二年・三十四年三十七年とほぼ毎年梅鶯仏青主催の念仏奉仕団参拝活動をされていきました。昭和三十二年は本山の建物を火災から守るために、男性は消防通路、女性には貯水池の地固め作業をしたことが記録に残っています。又、雨天の時は両堂の畳ふきなどされています。ご門主様との面接には、同行の老人達が感激のあまり顔も上げず涙を流され姿があつたそうです。当時の青年の仏法に出会った意が伝わってきます。ただ今参加者募集中心としており、す。ご参加を心す。お待ちしております。合



昭和三十四年(61年前)の梅鶯仏壯主催の念仏奉仕団

題材法話

四月に坂田組（25ヶ

寺)の組長に就任しました。が、予想もしなかったコロナ禍で、「組会」を始めあらゆる教化活動が多人数での集会となるため、すべて中止とせざるを得ない状況が続いております。

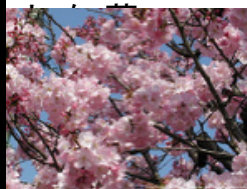
まして、組内の各住職、各門徒総代、各教化団体長の皆さま宛に、次の文書を発信させて頂きました。

梅鶯仏士の皆様方にも
ご一読賜ればと思いま
す。

新型コロナウイルス蔓延

念仏者として

く、不安な毎日
延は止まること
口ナウイルスの
世界的な新型

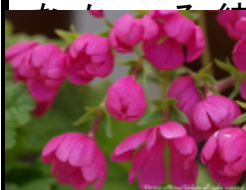


日本でも感染拡大に対し、政府が7都府県に対し緊急事態宣言を出すに至りましたが、ご承知の通り日本の緊急事態宣言は他国と異なり、ほとんど強制力が無く、要請です。

万が一国民が自己中心
 的な行動に出たならば緊
 急事態宣言は効力をなく
 すためほとんどの国では
 「政府が命令して、国民
 が従う」といったかたち
 をとっています。
 では何故日本ではこの
 ような緩やかなかたちで
 も、是と考えるのでしょ

うか？
やはり日本人には、他者を思いやる心、他者のためにつくす心、いわゆ

る利他の心が伝
かであるからだ
うと思います。
そしてその豊
な心は、仏教的



ものの考え方を中心に育てられてきたはずで。

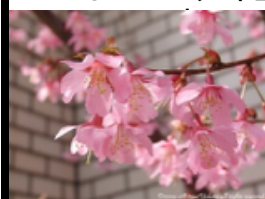
『あなたと不安を

共にした

い
L

という標語と共に、
「ウィルス感染のことが
本当に心配です。デマや
疑心暗鬼で心も迷い痛み
ます。だからこそ今、阿
弥陀さまの光りをあおい
で手を合わせ、お念仏を
申してせめて自己本位に
なりがちな私の姿を振り
返り、少しでもその不安
を共にして、助け合いの
心をはぐくめたらと思い
ます。この状況下、たと
え行事は出来なくとも、

いつでも阿弥陀
まがご一緒です
というメッセー
ジが発せられま
した。



心に響き合うメッセ—
ジです。

私達は今の自分が感染
しないことがとても大事
ですが、同時に私がある
に感染させる立場にある
可能性があることから、
「私から他人に感染させ
ない」という考え方で
感染防止取り組みが必要
です。

国難と呼ばれる不安なときであるからこそ、他を思いやる心を持った念仏者としての行動が、お互いの不安を少しでも和らげることになるのではないだろうか。

令和2年4月7日
坂田組組長 長野了

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

※先月号掲載の「断捨離の断行のつづきは次号掲載をさせて頂ます。

